

令和元年6月9日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02406

研究課題名(和文) 18世紀ロシア文学の「時間」の表象に見る近代市民社会の形成と精神文化の変遷

研究課題名(英文) The formation of modern civil society and the transition of spiritual culture in the representation of "time" in 18th century Russian literature

研究代表者

金澤 美知子 (KANAZAWA, Michiko)

日本大学・芸術学部・研究員

研究者番号：60143343

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代ロシアの市民社会形成期における新たな精神文化の確立のプロセスを、書簡、旅行記、回想等を含む広義の文学作品に刻まれた「時間」の表象を考察することによって明らかにしようとするものである。

このような目的のもと、研究期間の前半では、18世紀末～19世紀初頭のセンチメンタル小説を中心とするロシアの文学作品における主人公の行動の特徴を分析した。また後半においては旅の文化に注目し、18世紀後半に広がりを見せた西欧・ロシア間の旅について時間の経緯、経路、目的を取り上げ、異文化圏の間を移動するという18世紀人の体験を時間との関わりにおいても考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来のロシア研究では、「時間」は皇帝の日課や教会の儀礼等の調査の中で断片的に言及されるに留まっていたが、本課題の目的はこうした物理的「時間」についての調査ではなく、「時間」を表現する方法の中に現れた18世紀人の世界観と美意識を明らかにしようとしたもので、この点に発想の新鮮さがあった。

本研究はヨーロッパの他の文化圏との関係の中で近代ロシア社会の精神文化を明らかにするもので、比較文化研究としての意義を持つ。また、近代ロシアの精神文化の特徴を明らかにする試みは、同時に近代ロシア文学形成の歴史を明らかにする作業と表裏の関係であり、歴史研究と文学研究の相互補完的な作業のモデルケースであったと考える。

研究成果の概要(英文)：This study is to clarify the process of establishing a new spiritual culture in the modern Russian society by examining the representation of "time" inscribed in a broad range of literary works including letters, travel journals, memories etc.

During the term of the project, in the first half of the research period, we analyzed the characteristics of the protagonist's behavior in Russian literary works from the end of the 18th century to the beginning of the 19th century, especially in sentimental novels. In the second half, we focused on the culture of travel and took the 18th century's travel between Western Europe and Russia that showed spread in the late 18th century, covering time, routes, and objectives of the trip. Through the researches mentioned above, we also discussed about the role of "time" in the developing process of modern Russian culture.

研究分野：ロシア文学 ロシア文化

キーワード：ロシア ヨーロッパ センチメンタリズム 旅 カラムジン デイドロ カサノヴァ エミン

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

近代ロシア社会の形成は従来、歴史分野での研究課題と見なされることが多く、これまでに史資料を用いて、組織、制度や物理的環境の調査が試みられてきた。その一方で、そうした作業では看過されてしまう領域、特に「精神文化」についての研究は進展しているとは言いがたい。しかし、近代ロシア社会の実像に迫るためには当時の精神文化の特徴を明らかにすることがぜひとも必要である。本研究では、当時の世界観や美意識を計る指標としての「時間」に着目し、「時間」がどのように経験され、また表現されてきたかを明らかにする。その際に、「体験された時間」は既に失われている点を踏まえ、ここでは「表現された時間」、文章化された「時間」を扱う。「時間」の文章化、様式化は18世紀人の嗜好と評価を映し出しており、当時の社会的心性を示すものと言えるだろう。本課題は文学作品を考察対象とするが、必ずや歴史研究を補完する役割も果たすであろう。

本課題申請者のこれまでの研究との関係に関して言えば、近代ロシア文学成立のプロセスへの強い関心のもと、平成15～17年度科研補助金「近代ロシア文学の誕生とパトロンたちの文化史」、平成19～21年度科研補助金「手紙の文化に見る近代ロシア文学の成立過程」、平成23～25年度科研補助金「近代ロシア文学の成立にみる記号としてのヨーロッパの「風景」」等による研究では、日本における18世紀末から19世紀初頭のロシア文学の研究の前進に微力ながら貢献することができた。

しかし、これらの研究で得た成果は近代ロシア文学成立の経緯を理解する一助とはなったが、他方で、先行する18世紀前半の時代についての展望を獲得できなかった点、テキストを生み出した18世紀ロシア社会のメカニズムに踏み込むには限界があった点など、いくつか解決できない問題も残ることになった。これらの問題を解決するための手がかりを求める過程で、文学作品の中で「時間」がどのように演出され、文学の方法としてどのように用いられているかを探ることで、この課題を達成できるのではないかとの見通しをもった。

2. 研究の目的

本研究は、近代ロシア社会の形成期（18世紀～19世紀初頭）における精神文化確立のプロセスを、書簡や旅行記を含む広義の文学的著作に刻まれた「時間」の表象を考察することによって明らかにしようとするものである。

研究の出発点としては、18世紀初めのピョートル一世の政策によって大量に移入された西欧の文化がその後のロシアの社会生活に「時間」認識の大幅な変革をもたらし、それが新たな精神文化の形成に多大な影響を与えたとの認識がある。この変革はさまざまな表現媒体の中に痕跡を探ることが可能であるが、本研究では文学作品を対象とし、ロシアにおいて「時間」がどのように表象され様式化されたかを、その変化や西欧との差異にも注目しつつ考察する。

なお、文学作品の中に表現された「時間」は現実の時間ではないが、むしろ物理的な「時間」の様式化、虚構化にこそ近代ロシアの精神文化の特徴を確認することができると考えられ、それが本研究の狙いでもある。

3. 研究の方法

本研究は文学的著作の中に登場する「時間」の表象の考察を通して、近代ロシアの精神文化が形成される過程を明らかにするものである。実施内容としては、まず、17、18世紀ヨーロッパにおける「時間」の認識を理解した上で、次に、18世紀の文学作品の中で「時間」がどのように表現されているかを調査し、当時のロシア社会の時間概念や「時間」をめぐる関心と嗜好が18世紀を通してどのように変化したかを明らかにする。また、18世紀から19世紀初頭ロシア社会に大きな影響を与えた中・西欧諸地域、特にイギリス、フランス、ドイツにおける「時間」の議論および「時間」の表現を並行して調査し、ロシアの場合との比較考察を行う。

(1) まず、18世紀から19世紀初頭ロシアにおける時間認識の枠組みを理解する。18世紀ロシアではこの分野の研究の歴史が浅かったため、「時間」についての思索と理論化で既に長い歴史をもつ西欧の研究成果を踏まえる必要がある。研究分担者の専門領域を考慮し、特にフランス思想における時間論、時間認識についての考察を行い、併せてフランス文学における「時間」の表象を明らかにし、ロシアでの時間認識の考察に反映させる。

(2) 18世紀初頭、ピョートル一世の治世から18世紀末、エカテリーナ二世の時代まで、ドイツはロシアへ学問を移入する主な経路であった。18世紀ドイツ文学に現れた「時間」の表象を明らかにし、ロシアへのそれらの影響を調査する。

(3) 17世紀末にイギリスから始まったとされるグランド・ツアーを契機に、18世紀に広くヨーロッパに普及した旅の文化について考察する。「旅」の時間感覚は文学における「時間」の表現を考察する上で有効な手がかりとなるものと考えられる。

(4) 研究協力者のロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所18世紀部門主任、N.D.コチェトコワ博士 Н.Д.Кочеткова の協力のもと、ロシア18世紀の文学と社会についての最新の研究

成果を入手する。その他、隣接領域の複数の専門家、特に 18 世紀ロシア研究者にも協力を得、本課題の達成を実現する。

4. 研究成果

①本研究の成果は文学領域の専門家に限定することなく、18 世紀ロシア研究会等を通して、歴史分野の研究者と情報を共有した。その協力の集成として、2016 年に『18 世紀ロシア文学の諸相 ロシアと西欧、伝統と革新』を出版し、論文に加えて、序文等で 18 世紀ロシア文学、文化に就いての解説を行った。

②ロシア科学アカデミー 18 世紀部門主任のコチェトコワ博士 (Н.Д.Кочеткова) から 18 世紀ロシア研究の現状についての情報を得、また、コチェトコワ博士の 18 世紀ロシア研究の歴史と現在に関する論文を翻訳し、『18 世紀ロシア文学の諸相』に収録した。

③日本 18 世紀ロシア研究会の運営に参加し、研究誌の発行に協力した。本研究会は日本における 18 世紀ロシア研究の基盤とも言うべき組織である。また、日本トルストイ協会を運営し、18 世紀と思想的に深い繋がりのあるレフ・トルストイの著作の解釈の発展に貢献した。

④東京大学スラヴ研究室誌 SLAVISTIKA31 号に「18 世研究 ロシアと西欧」という課題を設定し、研究分担者と共に本研究の成果の一部を発表した。掲載論文においては、18 世紀ロシア文学の考察をもとに、19 世紀前半の作品も視野に入れて、近代ロシアの社会的心性の変遷がロシア文学の中にどのように反映されているかを明らかにした。

⑤国際ドストエフスキー学会 (IDS) において本研究の成果の一部を発表した。ドストエフスキーの文学的手法の中に 18 世紀の世界観、美意識の伝統に遡及できる要素があることを指摘し、同時に両者は特に「時間」についての理解、「時間」の演出の点で相違していることを明らかにした。これは近代ロシア文学における「時間」の表象の変遷に関する更なる追究の契機となるものであった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 金沢美知子、小説『セヴァストーポリ』と作家の眼差し、緑の杖、16 号、査読無、2019、pp.12-19
- ② 金沢美知子、18 世紀、ロシアへの旅、日本大学研究員報告書、17 号、査読無、2018、pp.14-20
- ③ Tetsuya Shiokawa、In memoriam Jean Mesnard、Revue d'Histoire littéraire de la France、査読無、2017 年 3 月号、pp. 251-256
- ④ Williams Laurence、"‘Like the Ladies of Europe’? Female Emancipation and the ‘Scale of Civilisation’ in Women’s Writing on Japan, 1840-80"、*Studies in Travel Writing*21.1、査読無、2017、pp.17-32
- ⑤ 金沢美知子、「親不孝娘の物語」とその変遷をめぐって、日本大学研究員報告書、16 号、査読無、2017 年、pp.11-19
- ⑥ 金沢美知子、ドストエフスキーの手紙とトルストイの日記、緑の杖、13 号、査読無、2016、pp. 21-30
- ⑦ 塩川徹也、本初子午線と教皇子午線ーロベール・シャール (1659-1721) の『東インド航海日誌』より、SLAVISTIKA、31 号、査読無、2016、pp. 25-39
- ⑧ 金沢美知子、「親不孝娘の物語」は近代ロシア社会形成過程の証人となるかープーシキンの『駅長』のもう一つの解釈ー、SLAVISTIKA、31 号、査読無、2016、pp. 11-24
- ⑨ Williams Laurence、"Jonathan Swift and Kaempfer’s *History of Japan: The Origins of the Court and Empire of Japan (1727/8)*"、*Notes and Queries* 63.1、査読無、2016、pp.79-82
- ⑩ 金沢美知子、ドストエフスキー『白夜』における 18 世紀の「甘美な憂鬱」、SLAVISTIKA、30 号、査読無、2015、pp.55-65

[学会発表] (計 7 件)

- ① 金沢美知子、文学に見るヨーロッパ貴族社会の女性たち、世田谷文学館友の会 (招待講演)、2018

- ② 宮田眞治、ホフマンとディドロ、シンポジウム「名前の詩学—文学作品における固有名と否定性の諸相」、2018
- ③ 宮田眞治、ヴァレリーとリズム—ドイツ近代からの視座、日仏シンポジウム（招待講演）、2017
- ④ Michiko Kanazawa、The Eighteenth Century's 'Sweet Melancholy' in Dostoevsky's "White Nights", XVI Symposium of the IDS（国際学会）、2016
- ⑤ 金沢美知子、18世紀、ロシアに旅した人びと、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター（招待講演）、2016
- ⑥ 塩川徹也、パスカル『パンセ』を読む、東京大学集英社高度教養寄付講座（招待講演）、2016
- ⑦ 金沢美知子、ドストエフスキーの手紙とトルストイの日記、日本トルストイ協会（招待講演）、2015

〔図書〕（計 5 件）

- ① 宮田眞治、リヒテンベルクの雑記帳、作品社、2018、p. 666
- ② 金沢美知子、18世紀ロシア文学の諸相、水声社、2016、p. 401
- ③ 塩川徹也、『パンセ』（下）、岩波書店、2016、p. 506
- ④ 塩川徹也、『パンセ』（中）、岩波書店、2015、p. 638
- ⑤ 塩川徹也、『パンセ』（下）、岩波書店、2015、p. 481

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：塩川 徹也
 ローマ字氏名：Shiokawa Tetsuya
 所属研究機関名：東京大学
 部局名：名誉教授
 職名：名誉教授
 研究者番号（8桁）：00109050

研究分担者氏名：宮田 眞治
 ローマ字氏名：Miyata Shinji
 所属研究機関名：東京大学
 部局名：大学院人文社会系研究科
 職名：教授
 研究者番号（8桁）：70229863

研究分担者氏名：Williams Laurence
 ローマ字氏名：Williams Laurence
 所属研究機関名：上智大学
 部局名：外国語学部
 職名：准教授
 研究者番号（8桁）：50750486

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
 ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。